

1. 題材 ちびっこカウボーイと友達になって歌おう
2. 教材 「ちびっこカウボーイ」(阪田寛夫作詞 アキレス作曲 長谷部匡俊編曲)
3. 指導観

本学級の子どもたちは、いろいろな曲を歌ったり、曲に合わせて楽器を演奏したりすることが好きである。音楽の時間に限らず、朝の会や休み時間でも、CDをかけて歌を歌ったり、リコーダーの曲を演奏したりという姿も見られた。しかし、歌詞の表す情景や気持ちを想像したりして、表現の仕方を工夫して歌うという経験はほとんど経験していない。学び合いの課程においても、曲想から自分なりの考えをもつことを苦手としており、お互いの考えを出し合い、共感して、表現を高めていくことまでに至っていない。

**こんな教材で**

教材曲「ちびっこカウボーイ」は、ちびっこカウボーイを囲んで歌ったり励ましている様子を表した明るい曲である。歌詞で表すと、一番は、西部から元気よくやってきたカウボーイをみんなで囲んで楽しく歌っている様子、二番は遠いパパとママのことを思い出して泣き出したカウボーイを囲んで歌い励ましている様子を表している。

旋律は、前半部分のなめらかな旋律と後半部分の動きの激しい旋律に分かれており、A-Bの形式になっており、ちびっこカウボーイの心情の変化や周りで見ている人の様子の変化がA-Bの形式で表現されている。

音符の面から見ていくと、八分音符や付点が多く使われており、リズムが軽快である。そのため、拍の流れに軽快にのりながらフレーズを感じ取って意欲的に歌唱表現することが可能である。

**こんな学習ステップで**

4時間

**つかむ (1時間)**

「ちびっこカウボーイ」の範唱CDや歌詞を読んだりして、曲の感じ(イメージ)について話し合い、学習の見通しを持つ。

**深める (1時間)**

歌詞から4つの場面に分かれていることを話し合い、それぞれの場面に合った表現の工夫(思いや気持ち)について考えさせる。

**味わう (2時間)**

場面の様子に合った歌い方の工夫をする。本時は、速さと強弱の工夫を学級全体で考えていく。強弱などのつけ方は、場面と場面を比較して子どもたちの思いを生かせるようにしていく。最後に、学級全体で表現の深まりを感じ取っていく。

**こんな指導・支援で**

**つかむ**

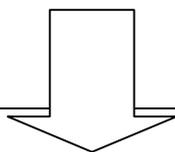
「ちびっこカウボーイ」は、アメリカの西部の男の子が主人公であることを感じとらせるために、西部やカウボーイ、バンジョーの写真を見せたりする。また範唱CDを聴かせたりして曲の感じをつかませ、歌詞・旋律・リズム・音程などを正しく歌えるように拡大楽譜に書き込みをしながら視覚的にとらえさせていく。

**深める**

場面の様子を想像しやすいように、情景画4枚を提示する。そして、歌詞や情景画をもとに、どんなふうに歌いたいのか、一人一人の思いや気持ちをまとめさせる。

**味わう**

場面の様子を想像しやすいように用意した情景画4枚をもとに場面ごとの表情を比べる活動を取り入れ、速さと強弱の歌い方の工夫を学級全体でしていく。最後にクラスで完成させた表現を聴き、自分たちの表現の高まりを感じさせることができるようにする。



こんな子どもに

- 4つの場面の様子や気持ちを想像しながら進んで歌おうとしている。 (関心・意欲・態度)
- カウボーイを囲んで、歌ったり励ましたりしている様子や気持ちを感じとり、強弱や速度、唱法を工夫して表現することができる。 (感受・表現の工夫)
- 呼吸や発音の仕方に気をつけて無理のない自然な声で歌うことができる。 (表現の技能)

#### 4. 指導計画 (全4時間)

	学習活動と内容	教師の指導・支援	評価規準
つかむ段階①	1. 範唱を聴き、本時のめあてについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             めあて ちびっ子カウボーイの歌を正しく歌おう。           </div> 2. 範唱 CD と自分たちの表現を聴き比べながら主旋律を正しく歌う。 3. 次時への見通しをもつ。	○カウボーイのイメージをもたせるために、写真を提示したり、絵本の読み聞かせをしたりする。 ○歌詞から曲想をとらえさせるために、拡大歌詞を提示する。 ○教師が伴奏しながら、部分的に教師と交互に歌わせる。 ○正しい歌い方と正しくない歌い方を教師が範唱し、聴き比べる。 ○拡大楽譜に書き込みをしながら、視覚的にとらえながら歌えるようにする。 ○正しい音程で歌えるように、旋律線をたどったり、ハンドサインで音の高さを示したりする。	(関) 歌の楽しさを感じながら進んで歌うことができる。  (技) 呼吸や発音の仕方に気をつけて、無理のない自然な声で歌うことができる。
深める段階①	1. 前時学習を想起し、学習のめあてをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             めあて 「ちびっ子カウボーイ」の歌詞から場面わけをして、どんな歌い方をしたらいいかを考えよう！           </div> 2. 歌詞を4つの場面に分け、様子や気持ちを考える。 ・1の場面・・・ちびっ子カウボーイが元気よく歌いながらやってきた場面 ・2の場面・・・楽しくみんなで歌っている場面 ・3の場面・・・両親を思い出し、寂しくなって泣き出した場面 ・4の場面・・・ちびっ子カウボーイを励ますようにみんなで歌う場面 3. 次時への見通しをもつ。	○縦書きの歌詞をもとに、4つの場面に分けさせる。 ○場面の様子を想像しやすいように、情景画を4枚提示する。 ○自分たちの考えを書き込めるプリントを用意し、場面ごとの歌い方を記入させる。  ○次時は、場面の様子に合った歌い方の工夫をしていくことを伝える。	(関) ちびっ子カウボーイの4つの場面に関心をもって、4つの場面に合った歌い方の工夫を考えようとしている。  (感・表) ちびっ子カウボーイの場面の様子や気持ちを感じ取り、歌い方を考えるができる。

<p>味わう段階 (本時) ① ／ ②</p>	<p>1. 前時学習を想起し、本時のめあてについて確認する。</p> <p>○4つの場面でできていること</p> <p>○場面の様子に合う歌い方(気持ち)を考えたこと</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて 場面の様子に合った歌い方の工夫をしよう。</p> </div> <p>2. 歌い方の工夫の観点を考える。</p> <p>(1) 速さの工夫をする。</p> <p>(2) 強弱の工夫をする。</p> <p>(3) 唱法の工夫をする。</p> <p>3. 学級全体で、強弱や速さの工夫について考える。</p> <p>○1の場面と2の場面を比べる。</p> <p>○1の場面と3の場面を比べる。</p> <p>○3の場面と4の場面を比べる。</p> <p>4. 歌いくらべ・聴き比べをしながら、場面に合った歌い方を決めていく。</p> <p>5. みんなの考えた歌い方で歌い、表現の深まりを味わう。</p>	<p>○学習想起のため、場面ごとの様子を表した情景画4枚を貼る。</p> <p>○場面による強弱や速さの工夫の比較が分かるように、○の大きさを示した強弱のカードや速さを示したカードを貼る。</p> <p>○児童の考えを生かすことが出来るようにピアノ伴奏を工夫する。</p> <p>○場面の様子に合った歌い方になっているか、聞き役を設定し確かめながら学習を進める。</p>	<p>(感・表)</p> <p>ちびっ子カウボーイの場面の様子や気持ちを感じ取り、速さや強弱を工夫することができる。</p>
---	---	---	--

### 本時 (3 / 4 深める段階)

#### 5. 本時目標

- 場面の様子や気持ちを想像しながら、歌いひたろうとする。(関心・意欲・態度)
- 4つの場面の様子や気持ちに合うように、速さや強弱を工夫して歌うことができる。(感受・表現)

#### 6. 本時指導の考え方

本時では、「ちびっ子カウボーイ」の4つの場面の様子やちびっ子カウボーイの気持ちを考え、その場面や気持ちに合った歌い方の工夫(速さ・強弱)をできるようにすることをねらいとしている。そこで、ちびっ子カウボーイの歌詞をとらえやすいように、前時で提示した情景画を4枚提示し、ちびっ子カウボーイの場面の様子を想起させるとともに、本時のめあてについて確認する。次に、前時に考えた歌い方の工夫(思いや気持ち)について確かめる。そして、その思いや気持ちを表すためにどんな工夫をしたらよいかを考えさせる。速さと強弱、唱法の工夫をすることで、子どもたちの思いや気持ちを表せることを確認した後は、学級全体で速さまたは強弱の工夫について考えさせていく。速さや強弱の工夫の交流では、場面と場面の様子を比べる活動を取り入れながら、速さと強弱の工夫を決めていく。場面の様子を比べる際は、速さも強弱も意図的に1と2の場面、1と3の場面、2と4の場面を比べさせていく。強弱については、4の場面の工夫がメゾフォルテとフォルテと分かれる可能性があるため、その際は、3に比べて声を大きくしていくんだねということで、児童の気持ちを汲み取れるようにしていく。実際に歌う際は、聞き役を設定し、子どもたちの歌の強弱や速さがいかにどうか考えさせる。最後は、本時で考えた工夫をもとにして、学級全体で歌い、表現の深まりを感じ取って、児童の頑張りを認めていくようにしていく。

7. 準備

拡大歌詞、挿絵4枚、鑑賞CD、強弱工夫カード、速さカード、録音用MD、

8. 展開

学 習 活 動 と 展 開	教 師 の 支 援	評 価 規 準
<p>1. 前時を想起し、本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 4つの場面に分かれていること</li> <li>○ 場面の様子に合う歌い方（気持ち）を考えたこと。</li> </ul> <p>めあて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 情景画4枚をもとに、前時の活動を想起させる。</li> </ul>	
<p><b>場面の様子に合った歌い方（速さと強弱）を工夫しよう！</b></p>		
<p>2. 場面わけした歌詞や挿絵をもとに、歌い方の工夫（思いや気持ち）を発表する。</p> <p>3. 子どもたちの思いや気持ちを表すためにどんな観点で工夫したらよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○強弱の工夫（p, mp, mf, f）</li> <li>○速さの工夫（速く, やや速く, ややおそく）</li> <li>○唱法の工夫（はずんだ, なめらか）</li> </ul> <p>4. 学級全体で強弱や速さの工夫について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 拡大歌詞に強弱カードを貼る。</li> <li>○ 2つの場面を比べながら歌う。</li> <li>○ 4つの場面に合う歌い方を考える。</li> </ul> <p>(例) 場面と場面を比べて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1と2の場面</li> <li>・ 1と3の場面</li> <li>・ 3と4の場面</li> </ul> <p>5. みんなの考えた歌い方で歌い、表現の高まりを味わう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話し合いをもとによりよい表現についてまとめ、場面の様子や気持ちに合った速さ・強弱の工夫ができるように話し合いを進めていく。</li> <li>○ 強弱カードは、大きさをかえ、視覚的にも強弱の変化が分かるようにする。</li> <li>○ 速さの工夫については、ピアノ伴奏を工夫し、児童の思いが生かされるようにしていく。</li> <li>○ 児童の強弱の工夫は、なぜそうしたのか、理由を歌詞や挿絵などに振り返らせながら考えを言わせる。</li> <li>○ 4の場面がmfとfに分かれた場合は、児童の気持ちを生かしながら、声をだんだん大きくしていく形でまとめていく。</li> <li>○ 最初に歌った児童の声と聴き比べ、表現の高まりを感じ取らせる。</li> </ul>	<p>(感)場面の様子に合った歌い方の工夫を考えることができる。</p> <p>(感)4つの場面のちびっ子カウボーイの様子を想像して歌いひたることができる。</p>

学習計画（1 / 3つかむ段階）

本時目標

- 歌の楽しさに関心をもって進んで歌おうとしている。（関心・意欲・態度）
- 場面の様子に合った歌い方をすることに関心を持つ。（関心・意欲・態度）
- 正しい音程，リズム，発音，呼吸法で歌おうとしている。（表現の技能）

展開

学 習 活 動 と 内 容	教師の指導・支援	評 価 規 準
<p>1. 範唱を聴き，本時のめあてについて話し合う。</p> <p>(1) 範唱 CD や歌詞をもとに曲想について話し合う。</p> <p>○カウボーイの男の子が主人公の楽しい歌であること。</p> <p>(2) 本時のめあてを話し合う。</p>	<p>○カウボーイのイメージをもたせるために，写真を提示する。</p> <p>○歌詞から曲想をとらえるために，拡大歌詞を提示する。</p>	<p>(関) 歌の楽しさを感じながら進んで歌うことができる。</p>
<p>「ちびっ子カウボーイ」の歌を正しく歌おう。</p>		
<p>2. 範唱と自分たちの表現を聴き比べて主旋律を正しく歌う。</p> <p>○歌詞や旋律を正しく覚えて歌うこと。</p> <p>○正しい音程，リズム，発音，呼吸法で歌うこと。</p>	<p>○教師が伴奏しながら，部分的に教師と交互に歌わせる。</p> <p>○正しい歌い方と正しくない歌い方を教師が範唱し，歌い比べる。</p> <p>○歌詞・旋律・リズム・音程など正しく歌うことができるように拡大楽譜に書き込みをしながら視覚的にとらえられるようにする。</p> <p>○自分たちの表現と範唱 CD を聴き比べる。</p> <p>○正しい音程で歌えるように，旋律線をたどったり，ハンドサインで音の高さを示したりする。</p> <p>○正しい発声で歌えるように，ラララの部分はおなかの下のほうに深く息を入れてからゆっくりと息を出すようにアドバイスする。</p>	<p>(技) 呼吸や発音の仕方に気をつけて無理のない自然な声で歌うことができる。</p>
<p>3. 次時への見通しをもつ。</p>	<p>○次時への見通しをもたせるために，次時間は場面の様子をとらえ，歌い方を工夫していくことを伝える。</p>	

学習計画（2 / 3 深める段階）

本時目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 場面の様子に合った歌い方に関心を持って進んで歌うことができる。(関心・意欲・態度)</li> <li>○ 場面の様子に合った歌い方(唱法の工夫)をすることができる。(表現の技能)</li> </ul>
---

展開

学 習 活 動 と 内 容	教師の指導・支援	評 価 規 準
<p>1. 前時学習を想起し、本時のめあてについて話し合う。</p> <p>○リズムや旋律に気をつけて正しく歌ったこと。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>場面の様子を話し合い、歌い方を工夫しよう。</p> </div>		
<p>2. 歌詞を4つの場面に分け、様子や気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1の場面・・ちびっ子カウボーイが元気よく歌いながらやってきた場面</li> <li>・ 2の場面・・楽しくみんなで歌っている場面</li> <li>・ 3の場面・・両親を思い出し、寂しくなって泣き出した場面</li> <li>・ 4の場面・・励ますようにみんなで歌う様子</li> </ul>	<p>○場面の様子を想像しやすいように、情景画4枚を提示する。</p> <p>○場面の様子や気持ちをとらえさせるために、場面ごとの表情を比べる活動を取り入れる。</p>	
<p>3. 歌い方を工夫する。</p> <p>(1) 工夫の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○唱法の見通しをもつ。</li> <li>○速さの見通しをもつ。</li> <li>○強弱の見通しをもつ。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(2) 場面の様子や気持ちに合う唱法を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1と2の場面について</li> <li>○ 1と3の場面について</li> <li>○ 2と4の場面について</li> </ul> </div>	<p>○既習経験を想起させ、唱法、速さ、強弱を工夫することで、場面の様子や気持ちをより表すことができることを確かめる。</p> <p>○視覚的に工夫をとらえさせるために、場面と場面を比べさせ、場面の様子に合った唱法カードを提示する。</p>	<p>(感・表)</p> <p>気持ちを感じ取り、速さや強弱を工夫することができる。</p>
<p>3. 場面の様子に合うか、歌って確かめる。</p> <p>4. 本時のまとめをし、次時について話し合う。</p>	<p>○次時は、速さと強弱について工夫していくことを伝える。</p>	

学習計画（3 / 3 味わう段階）

本時目標

- 場面の様子に合った歌い方に関心を持って進んで歌うことができる。（関心・意欲・態度）
- 場面の様子に合った歌い方（唱法の工夫）をすることができる。（表現の技能）

展開

学 習 活 動 と 内 容	教師の指導・支援	評 価 規 準
<p>1. 前時学習を想起し、本時のめあてについて話し合う。</p> <p>(1) 前時学習を想起して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 4つの場面でできていること。</li> <li>○ 場面の様子に合う唱法を工夫したこと。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「ちびっ子カウボーイ」場面の様子に合う歌い方を工夫しよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時での学習想起のため場面ごとの情景画4枚を貼り、唱法カードを提示していく。</li> <li>○ 前時に話し合った工夫の観点について確かめる。</li> </ul>	
<p>2. 歌い方の工夫（速さ・強弱）をする。</p> <p>(1) 速さの工夫をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>(2) 場面の様子や気持ちに合う速さを工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1と2の場面について</li> <li>○ 1と3の場面について</li> <li>○ 2と4の場面について</li> </ul> </div> <p>(2)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>(2) 場面の様子や気持ちに合う強弱を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1と2の場面について</li> <li>○ 1と3の場面について</li> <li>○ 2と4の場面について</li> </ul> </div> <p>3. 3年○組のみんなの考えた歌い方で歌い、表現の深まりを味わう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分たちの考えを整理し、工夫しやすいように学習プリント用意し、速さと強弱の工夫を書き込ませる。</li> <li>○ 場面の様子に合った歌い方になっているか歌って確かめる。</li> <li>○ 発表のときは、児童の考えを生かすことができるように、ピアノ伴奏を工夫する。</li> <li>○ 場面による音の大きさの比較が分かるように強弱を○の大きさを表したカードを貼る。</li> <li>○ 4の場面の考えが分かれた場合は、児童の考えを生かすために、声の大きさを大きくしていく形でまとめる。</li> </ul>	<p>(感・表)</p> <p>場面の様子や気持ちを感じ取り、唱法を工夫することができる。</p>

## 「ちびっこカウボーイと友達になろう」 発問計画

### 導入

T: はじめの歌をかける。

C: 子どもたちは、黙って立って歌う。終わったら座る。

T: ちびっこカウボーイの学習をしていましたね。ちびっこカウボーイには、4つ場面がありましたが、覚えていますか? どんな場面がありましたか? 教えてください。

C: ①カウボーイが馬にのって元気よく歌いながらやってきた場面があります。

C: ②みんなで輪になって元気よく歌った場面があります。

C: ③遠いところにいる両親のことを思い出して悲しくなって泣き出した場面があります。

C: ④カウボーイを励ますようにみんなで輪になって歌った場面があります。

T: よく覚えていますね。この4つの場面がありましたね。では、今日のめあては何でしたか?

C: 場面の様子に合った歌い方の工夫をします。

T: そうでしたね。「この4つの場面の様子に合った歌い方の工夫をするんだね。」  
(めあてをはる。)

T: では、この4つの場面に合った歌い方で、みんなで一度歌ってみましょう。  
(教師の伴奏で、ちびっ子カウボーイを歌う。)

### 展開

T: どうですか? 4つの場面の様子に合った歌い方を上手にできましたか?

C: まだできていない。

T: そうですね。まだどういう歌い方をするとか、みんなで話し合いもしていないですね。それに、先生が聴いていて、どの場面の歌声も一緒だった気がしますよ。後ろに来ていただいてある先生たちにも聞いてみましょうね。今の歌声でバッチリだったという先生方、手を挙げてください。

T: 今日の学習で、場面の様子に合った歌い方ができるようになるといいですね。

T: では、それぞれの場面の様子に合った歌い方は、どんな気持ちで歌うといいですか?

C: ①馬に乗って元気よくやってきたので、明るく、元気に、はずんだ感じで歌います。

C: ②みんなで元気よく輪になって歌っているので、明るく、楽しく、元気に歌います。

C: ③遠いお父さん・お母さんのことを思い出しているのです、寂しそうに歌います。

C: ④カウボーイを励ましているのです、温かい声で励ますように歌ったらいいいと思います。

T: 場面の様子を考えた、よい意見を出してくれましたね。みんなの思いや気持ちがとても伝わってきましたよ。でも、みんなが思いや気持ちをもっただけで、歌声がかわったり、場面の様子があらわれるかということ、十分ではないような気がしますよ。思いや気持ちの他に、歌のこんな部分を意識すれば歌声がかわるといいう工夫や観点はありますか?

C: ①強弱の工夫

C: ②速度の工夫

C: ③歌い方(唱法)の工夫

T: よく知っていましたね。先生も、思いや気持ちをもった上で、さらに強弱や速度、歌い方をかえれば、曲の様子をもっと表せるようになると思います。

T: では、3つ全部は一度に工夫することは、難しいので、今日はこの中からまず1つ選んで工

夫をしていきましょう。どの工夫をしていきたいですか？

C：速さをしたいです。

T：では、速さの工夫を今日はみんなで考えていきましょう。

C：強弱の工夫をしたいです。

T：では、今日は、強さの工夫をみんなで考えていきましょう。

ここで、みんなに、教えることができます。音楽の中には、強さを表す記号があります。その記号を使って今日は、考えてみて下さい。

p・・・弱く、 mp・・・やや弱く、 mf・・・やや強く、 f・・・強く

さあ、では1の場面からみんなで考えてみましょう。1の場面はどうしたらいいかな？

C：1の場面は、ちびっこカウボーイが元気よくやってきているけど、1人で歌っているので、mfがいいと思います。

C：2の場面は、ちびっこカウボーイを囲んで、町の人みんなで歌っているから、mfより強くして、fで歌ったらいいと思います。

C：3の場面は、遠くにいるお父さんやお母さんのことを考えて泣いているし、寂しそうな気持ちがあるので、1より弱くして、mpにしたらいいいと思います。

C：4の場面は、ちびっこカウボーイがさびしい気持ちで泣いているけど、みんなで励まして輪になって歌っているので、3より強くしてmfにしたらいいいと思います。

T：一通りみんなの考えが出てきたようなので、実際に歌うことで、それぞれの場面の強さがこれでいいのか、調べていきましょう！

では、みんなが歌ってしまおうと、強弱がそれでいいのか確認する人がいなくなるので、強弱の工夫をつけて歌う人、みんなの工夫した歌い方がいいのか確認する人に役割を分けたいと思います。